

第 2 回島田市都市計画マスタープラン等 アドバイザー会議 議 事 要 旨

◆日 時：平成 30 年 11 月 12 日（月）10：00～12：00

◆場 所：島田市役所 4 階第 3 委員会室（南）

◆出席者：

○アドバイザー会議委員（5 人）

分野	氏名	役職等	備考
都市計画	海道 清信	名城大学都市情報学部 教授	会長
建築	寒竹 伸一	静岡文化芸術大学 副学長	副会長
防災	岩田 孝仁	静岡大学 教授 防災総合センター長	
都市及び 地方計画	角入 一典	日本技術士会静岡県支部	
経済	玉置 実	静岡経済研究所 主席研究員	
行政	内山 和好	静岡県交通基盤部 理事 島田土木事務所長	欠席

◆主な意見

(1/3)

項 目	意 見
資料 2 アドバイザー 会議ヒアリン グ結果まとめ 参考資料 都市構造評価	<p>(都市構造評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各評価指標について、偏差値のみでなく、数値も掲載してほしい。 各指標間のつながりはないので、表現としてレーダーチャートではなく、棒グラフ等としたほうが良い。 島田市の強みが表現できる指標での評価も試みてはどうか。 島田市の目指す方向性を説明するのに活用できるよう整理してはどうか。
資料 3 第 5 章 都市の将来像	<p>(都市づくりの基本理念)</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市づくりの基本理念が唐突に出てくる印象。前段でまとめる現況整理、市民意識調査、課題の整理から、基本理念がどのように結びついているかをもう少し丁寧に説明してほしい。 社会の潮流を踏まえ、例えば「豊かさ」といったキーワードについて、市民の考えが変化していることをうまく表現できると良い。

項 目	意 見
資料 3 第 5 章 都市の将来像	<p>(都市の将来像)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の意見である「島田市のありたい姿」や行政が考える「目指すべき都市の姿」から、都市の将来像にある「コンパクトなまち」が結びつかないように思える。考え方の流れを分りやすく表現してほしい。 ・「目指すべき都市の姿」と「都市づくりの目標」の 5 項目が同じであり、流れが分りづらい。 ・まちづくり市民会議でキーワードとして出された「子育てしやすいまち」や「大井川の活用」といったものをもっと表現し、市民参加で作上げた計画として、島田市らしい将来像として欲しい。 ・市民の意見をまとめた「島田市のありたい姿」の各意見が、目指すべき都市の姿の各項目にどのように対応しているかがわかるようにしてほしい。 <p>(将来都市構造図)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゾーン分けが大雑把ではないか。例えば、「森林・農地ゾーン」の中に入っている集落地の扱いをどうするかなどが表現しきれていない。
資料 4 立地適正 化計画 について	<p>(立地適正化計画策定の留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化計画を策定するには、「覚悟」と「したたかさ」が必要。「覚悟」としては、市民が十分納得できる説明が必要で、例えば都市マスで掲げた「安全安心な都市づくり」を前面に出し、洪水ハザードマップや土砂災害警戒区域において災害の危険性が高いエリアの人は、安全なエリアに移住して頂くなどのストーリーが考えられる。また、「したたかさ」とは、国は様々な支援メニューを持っているので、例えば密集市街地の解消など、やりたい施策のツールとして、本計画をうまく活用することが大切である。 ・立地適正化計画策定を通じて、災害の危険性が高いエリアなど、自分たちがどのような所に住んでいるのかを知るプロセスとなると良い。 ・立地適正化計画を導入することによる、市民にとってのメリット・デメリットを分りやすく示し、市民が自分の住んでいるところにどのように影響があるのかが分かるような資料作りをしてほしい。 ・立地適正化計画は万能ではないので、様々な計画との連携が必要。 ・立地適正化計画を策定する上で、時間軸を意識して頂きたい。コンパクトシティ形成には世代が変わるぐらいの期間がかかるが、AI 等を活用したスマートシティはおそらくもっと短期間で達成できるであろう。 ・コンパクトシティは、すぐに効果が出なくてもまず意思表示をすることも大切。

項目	意見
資料4 立地適正化計画について	<p>(立地適正化計画策定の留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山市は、現在コンパクトシティに市民、議会も賛同しているが、これまでに市長はじめ、市が地域に出向いて丁寧な説明をしてきた。実現には本気で取り組む必要がある。一方、各都市の立地適正化計画を見ると、覚悟を持ってやっている都市は少ないと感じている。島田市には覚悟を持ってやってほしい。 ・島田市がなぜコンパクトシティをやりたいのかを明確にしてほしい。市民意識調査では、自然と共生しながら暮らしたいという意見が多い中で、市街地に投資を重点化していくことをどう説明していくか。公共や生活サービスはある程度集約して、そこに行けばすべてがそろろうといった拠点を設けつつ、居住については自然に近いところで住んでもらうといった方向が市民の意向に沿ったものではないか。 ・市民にとって良い計画となるよう、様々な住まい方が描かれるような計画として欲しい。 ・防災をキーワードにして居住誘導する方法に加え、エネルギー消費がなるべく少ない都市にするというのもコンパクト化の目的と考える。 <p>(コンパクトシティの施策について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市のランドバンクなど、空き家・空き地を利活用する方法はいろいろある。従来の区画整理は、時間・費用が掛かる上に、まちの魅力を高めるなどの点で効果に疑問があるので、導入は慎重にされたい。 ・熊本地震の復興について、現地も見に行ったが、まちの耐震化がなされておらず、地権者だけの力では何ともならない部分もあるので、重点的に取り組むエリア等を検討し、行政も取り組んでいくことも必要である。 ・富山市にはLRTなど鉄道が軸となってコンパクトシティを推進できている。島田市は軸となるものをどう考えるかが課題。

以上